

議事日程 (第 4 号)

平成26年12月12日 午前10時00分開議

日程第 1 一般質問

1 2 番 久間 進 議員

1 3 番 市山 繁 議員

本日の会議に付した事件

(議事日程第 4 号に同じ)

出席議員 (16名)

1 番 赤木 貴尚君	2 番 土谷 勇二君
3 番 呼子 好君	4 番 音嶋 正吾君
5 番 小金丸益明君	6 番 深見 義輝君
7 番 今西 菊乃君	8 番 市山 和幸君
9 番 田原 輝男君	10番 豊坂 敏文君
11番 中田 恭一君	12番 久間 進君
13番 市山 繁君	14番 牧永 護君
15番 鵜瀬 和博君	16番 町田 正一君

欠席議員 (なし)

欠 員 (なし)

事務局出席職員職氏名

事務局長	榊崎 文雄君	事務局次長	吉井 弘二君
事務局書記	若宮 廣祐君		

説明のため出席した者の職氏名

市長 …………… 白川 博一君 副市長 …………… 中原 康壽君

教育長	……………	久保田良和君	総務部長	……………	眞鍋 陽晃君
企画振興部長	……………	山本 利文君	市民部長	……………	川原 裕喜君
保健環境部長	……………	斉藤 和秀君	建設部長	……………	原田憲一郎君
農林水産部長	……………	堀江 敬治君	教育次長	……………	米倉 勇次君
消防本部消防長	……………	安永 雅博君	病院部長	……………	左野 健治君
総務課長	……………	久間 博喜君	財政課長	……………	西原 辰也君
会計管理者	……………	土谷 勝君			

午前10時00分開議

○議長（町田 正一君） おはようございます。

会議に入る前に御報告いたします。沓岐新聞社ほか3名の方から報道取材のため撮影機材等の使用の申し出があり、これを許可いたしておりますので御了承願います。

ただいまの出席議員は16名であり、定足数に達しております。これより本日の会議を開きます。

日程第1. 一般質問

○議長（町田 正一君） 日程第1、一般質問を行います。

あらかじめ申し上げます。一般質問の時間は、質問、答弁を含め50分以内となっておりますので、よろしくお願いします。

質問通告者一覧表の順序によりまして、順次登壇をお願いします。

それでは、質問順位に従い、12番、久間進議員の登壇をお願いします。

〔久間 進議員 一般質問席 登壇〕

○議員（12番 久間 進君） おはようございます。市長におかれましては、2日目ということ

で大変お疲れのところでございますけれども、本日は2点について質問させていただきます。

2件とも予算に絡む問題でございますけれども、それはさておいて、市長の明快な答弁を期待いたしまして、質問いたします。

まず、最初に、三島小学校の統廃合による、タイトルには登下校の道路整備ということでございますけれども、通学路ということで御理解をお願いしたいと思います。

先般、教育長からも御報告がありましたように、三島小学校は27年4月から大島本校に統合ということでスタートいたします。検討委員会の中でも大きな問題として、やっぱりどこに統合をするのかということで問題になりましたけれども、校舎の規模とか、やっぱり大島と長島の橋のつながっているとか、総合的ないろんな問題を評価いたしましたところ、本校ではどうかとい

う提案がなされて、それに対して、原島、長島の分校のほうから、父兄からもまた地域からもいろんな意見が出たわけですが、最終的に両島の父兄の決断によって本校ということに決まりました。

やっぱり、教育長が申しあげましたように、両手挙げて賛成ということではないわけです。それぞれやっぱり思いがあって、最終的には子供のためということでこういう結果が出たわけですが、私も委員会の中の一人として、やっぱり両分校の父兄には頭の下がる思いがいたしました。

そういう中でスタートをするわけですが、ここに掲げておりますように、通学に関する問題もまた大きな問題であります。原島分校の児童は、フェリーを利用して大島の発着所から徒歩で学校までということでございます。原島が来年4月から1年生2人が入学するわけですが、当分の間、子供が船になれるまで学校のほう側が大島から原島に同行して、フェリーに乗って子供と一緒に大島まで同行するというそういう話も決まっております。長島に関しては、最初は原島がフェリーで通学するならフェリーという話も出ておりましたけれども、御父兄の判断によりまして徒歩で通学することということになりました。

市長も、大島の道路状況についてはある程度わかっておられると思いますけれども、フェリー発着所から大島本校までは、軽トラックで何とか徐行すれば離合ができるような道路状況でございます。今回は、来年度からは長島がもう年間通して通学するわけです。

それで、大島の架橋の取り付け道路までは広いんですが、それから途中の一部がどうしても狭いんです、道路状況として、軽トラックが通ったら人は横にのいとかないかんというような状況なんです。6月なんか、草が大きくなる時期になると、両サイドからも草が生い茂ってしまって、もう道路の真ん中を通らんと通行ができなんような状況なんです。今回、通学路になる、一番最短距離ですから、それがもう通学路と思っております。長島の父兄のほうからも、道路をどうか広くしてもらえないかという委員会の中での要望も上がっております。

そういうことから、子供が通学するために安全で安心のできる通学路として整備できないかということで今回質問をいたしました。市の見解をよろしく願います。

○議長（町田 正一君） 久間議員の質問に対する理事者の答弁を求めます。白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） おはようございます。12番、久間進議員の御質問にお答えいたします。

三島小の統廃合による登下校の道路整備について、安全管理についてという御質問でございます。

私は、今回、壱岐市内で小学校の統合問題の研究が行われました。そういった中で、壱岐本島の小学校におかれましては、複式学級になってもやはり小学校は地域文化の拠点だというような

ことで、統合が見送れたという状況でございます。そういった中で、三島地区におかれましては、それぞれの島が全てが橋がかかっているわけではございません。そういった中で統合をなさる、これは、私は大きな保護者の方々の御判断だったと思っております。やはり、先ほどおっしゃるように、もろ手を挙げてみんなが賛成したんだということではないと、十分、保護者の皆さん方のお気持ちは察するに余りあるところがございます。

そういった中で、久間議員御指摘の子供の登下校での安全を確保する、これは当然保護者の方が思われることでございまして、市としても、これについてはほんとに真摯に受けとめたいと思っておる次第であります。

そういった中で、教育長から11月17日の会議における要望等の概要について報告を受けております。議員御質問の珊瑚大橋の前後における長島の児童の通学路の安全については、近日中に現地調査を行いまして、速やかな対応を行いたいと思っております。

また、県、警察、市、各学校、PTAで組織をいたしております壱岐市通学路安全対策推進協議会によりまして、先月から市内各小学校区の通学路における交通安全の確保に向けた合同点検を行っております。三島小学校校区につきましては、12月8日に実施をいたしております。その中で、この件とは別に数カ所の要望事項についても報告がなされておるところであります。これらの要望事項を精査いたしまして、限られた予算ではございますけれども、随時整備を行いまして、通学児童の安全安心な登下校ができますよう取り組んでまいります。

なお、道路整備に伴いまして用地の確保が必要となります。どうか、用地の提供につきまして、地元の皆様方の御協力を賜りますよう、久間議員のほうからもひとつ御協力方、よろしく願いを申し上げます。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 久間議員。

○議員（12番 久間 進君） 教育委員会のほうも、もう既に動きがあつておるということでございます。これは、やっぱり保護者が自分の子供の安全安心を守るための要望でございます。市長の答弁も明快な御答弁をいただきました。なるべく早く、そういうことに向けて実現できるようにお願いをいたします。ありがとうございます。

2点目について質問をいたします。

渡良浦フェリー待合所の件について、当初から埋立地ということであそこが使用する時点から、埋立地ということ地で盤が落ち着いていないということで、現在も仮設の待合所であります。ですけれども、年数がたつてある程度落ち着いたのではないかということでお聞きをいたすわけではございますけれども、今後建設の計画はあるのかないのか。あるなら、いつごろになるのか。これがまず第1点目。

第2点目については、トイレの問題でありますけれども、これも仮設ということで、現在、待合所と道路を隔てた隣の敷地に仮設トイレがあるわけがございますけれども、どうしても場所が場所だけに、若い女の人とか女性の方、女の中学生なんかは、どうしても入りづらいと思うんです、場所が場所だけに。それと、やっぱり仮設でありますので、雨のときが、入り口にひさしもついてないし、どうしても使用がしづらいということがやっぱり住民の中からも出てきておりますので、ぜひこのトイレの解消ができないかということで質問いたしましたので、答弁の方、よろしく願いをいたします。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 久間議員の2番目の御質問、現在、埋立地にある仮設の待合所について、地盤も落ち着いたんじゃないかということで、仮設でありますから本物の待合所の建設計画はあるのかということ、そしてそのトイレが道を隔てて設置をされている。これも仮設でございますけれども、女性、特に中学生、若い女性等々が非常に使用しづらいということ、もちろん雨の日も使用しづらいというようなこと。

場所を私も確認をいたしますと、待合所から、いわゆる船が着く方向にあるということで乗降客の目に触れる場所にある、それも事実でございました。その中で、今、現在までのことを少し申し上げますと、現在のフェリー三島渡良浦待合所敷地につきましては、平成23年3月に長崎県によりまして港湾施設用地として整備がなされ、そのうちの2,120平方メートルにつきましてフェリー三島施設関連用地として県から使用許可をいただいているところでございます。

当初は、埋め立て地盤が安定するまでの間、仮設の待合所で対応するというので平成23年10月に建設をいたしまして、現在に至っているところでございます。その後、仮設待合所の程度がよかったものですから、平成24年3月の議会総務文教常任委員会の中で、仮設であるが当分は十分使用に耐え得る、耐用年数を考慮し、本施設の計画をすべきとの御意見をいただいているところであります。

このことから、新たな待合所建設につきましては、今後、耐用年数等を考慮しながら、これは法定で7年ということになっております。平成31年9月までが耐用年数ということになります。これらを考慮しながら、関係機関、これは九州運輸局及び長崎県が関係機関になりますけれども、協議を行いまして計画をしてまいりたいと思っております。したがって、現時点では計画はないということでございます。

また、仮設トイレにつきましては、ポンプ式簡易水洗型を1基設置をいたしておりますけれども、待合所とは道路を隔てた位置に設置をいたしております。これは、当初の予定として、将来的な新たな待合所は仮設待合所の反対側、いわゆる今のトイレのあるほうに本物の待合所をつく

ろう、いわゆる乗降客がすぐ船のところに行ける、そこにつくろうという計画があったために、その道を隔てたところに仮設トイレを設置をしていたという経緯がございます。

しかしながら、先ほどの議員の御指摘のように、使用しづらいというようなこともございます。現状と御要望をお聞きする中では、やはり検討すべき課題かなと思うところでございます。

ただ、この仮設トイレにつきましても減価償却の対象となっているということもございまして、先ほど申しました待合所との関連もでございます。関係機関と協議を行いながら、国庫補助対象補助航路における減価償却の対象にもございますので、耐用年数の関係もでございます。関係機関と協議をさせていただいて、また久間議員との中でも、そういった中で実務的な協議を進めさせていただきたいと思っておるところであります。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 久間議員。

○議員（12番 久間 進君） 待合所の件につきましては、僕も委員会の中で言ったことがありますけれども、現在の渡良の待合所は、郷ノ浦とか大島の待合所とまたちょっと違うわけです、途中ですから、起点になるわけじゃないですから、ですから30分以上もあそこで待つ方はほとんどおられないわけです。

ですから、僕は何か委員会で言ったような感じがするんですけども、今の仮設の待合所でもいいんですよと言ったことがありますけれども、これも耐用年数があるようでございます。とりあえず、どんな施設でも耐用年数はあるわけですけども、僕は、今回一応質問をいたしておりますけれども、待合所の件については、やはりそういう状態からいって、現状を踏まえたときに、今の待合所が対応できる間それでも構わないと思っているんですけども、やはりトイレもその中に一緒に含んでおるということでございますが、やっぱりトイレはどうしても不便さを感じられる方が多いわけです。やっぱり場所が場所でもあるし、やっぱり人目が気になるわけです。

ですから、あのトイレをもうちょっと待合所の横のほうにでもどうか設置ができないかと。どうしても、ポツンと広いところにあるわけですから、どうしても目につくわけです。ですから、住民の話を聞くとやっぱり入りづらいという意見が多々あるわけです。ですから、トイレの件については、何とか待合所のそばに、なるべく人目のつかないようにちゅうたらおかしいですけども、やっぱり入りやすいような場所に移動できないものか、その点お伺いしたいと思います。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 久間議員おっしゃる、私もそういうことができれば早急にしたいなと思っております。

ただ、私も技術的なことはちょっと勉強しておりませんが、仮設トイレだからすぐ動か

せるんじゃないかという私は頭があったんです。ところが、タンクについては何か下に入っているようでございまして、今、リースでいう仮設トイレとはちょっと違うというようなことで、その仮設トイレだから動かせるのかなという不安があるようでございます。

そういったことも含めて、しかしながら、仮設トイレが移設できれば、私はすぐにでも移設をしていいと思っております。それは減価償却の対象も構わんわけですから、動かせば、しかしそれが動かせないということになると、また話が少し変わってまいりますので、それはまた、議員のお気持ちも十分わかりますので御相談をしたいと、関係機関とも相談もしてみたいと思っております。

また、先ほど申しましたように、実際の実務面につきましては、久間議員とも担当課と御相談をいただきますようお願いを申し上げたいと思っております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 久間議員。

○議員（12番 久間 進君） トイレの件につきましては、僕も、仮設ですから、今市長が言われたようにすぐ移動できるのかなと、普通のイベントに使ってあるようなトイレかなというそういう思いで質問をいたしました。そうじゃないということで、理解しました。

住民は、私が今申し上げましたようなことで、やっぱりどうにかできないかという気持ちがございまして、ぜひ今後検討していただいて、よろしく願いをいたしたいと思えます。

ちょっと話が余談になるんですけども、今回2点質問いたしましたけれども、私の意に沿うような答弁をいただきまして、ほんとありがとうございます。私、議員になってから島の若い人に何度か聞かれたことがあるんですけども、「おんなじ税金を払って何で島のもんは本土とおんなじ条件で生活ができんとか」とよく聞かれますけれども、私は離島である以上、やっぱりそのハンディは背負わないかん。しかし、そういう状況の中でいかに本土に近づくかが問題じゃないとですかと僕はいつも言ってるんですけども。

市長、議長には機会あるごとに架橋の要望も行っておりますし、今回、三島小学校の統廃合によって、島民の方は今まで以上に橋の必要性をもう感じられておると思うんです。市長、議長には、今後ともより以上の御尽力をいただきますようお願いいたしまして、質問を終わりたいと思えます。ありがとうございました。

〔久間 進議員 一般質問席 降壇〕

○議長（町田 正一君） 以上をもって、久間進議員の一般質問を終わります。

.....

○議長（町田 正一君） 一般質問を続けます。

次に、13番、市山繁議員の登壇をお願いします。

〔市山 繁議員 一般質問席 登壇〕

○議員（13番 市山 繁君） 皆さん、おはようございます。久間議員の充実した質問で時間が早く回ってまいりました。平成26年の会議も12月会議が最終でありまして、一般質問の登壇者も私が最後でございます。市長におかれましても大変お疲れのところでございますけれども、いつものように残り50分でございますので、おつき合いをよろしく願いいたします。

それでは、13番、市山繁が市長に対しまして一般質問を行います。質問事項は、通告に従いまして、大きくは2点、そして要旨として何点か上げておりますので、よろしくお願いをいたします。簡潔な御答弁をお願いいたします。

本来ならばすぐに質問に入るわけでございますけれども、今回の私の質問はすぐにできることではなくて、内容的にも厳しい点もありますので、本題の質問に入る前に、市長に期待感を持って、一言申し上げたいと思っております。

まず、白川市長は、市の首長でありまして、そして市民の象徴といえますか、いわゆる旗印であります。そして、また市民の代表であります。そして、私たち議員も市民の代表、そして代弁者であり、市民の声を拝聴してそれを議会に反映させるという私たちも責務がございます。そうした中で、市長におかれましては、この厳しい社会情勢の中に壱岐市の行財政そして山積する諸問題に日夜御尽力をいただいておりますことに対しまして、敬意と感謝とねぎらいを申し上げたいと思っております。

今、国会では解散されて選挙中でございますけれども、政府は、国の立て直しは経済であり、景気対策が必要ということを言われております。そして、また地域創生の法案も可決されて、石破地方創生大臣が就任をされたわけでございます。石破大臣は、一極集中都市を分散して地域を活性化するということが言われております。そして、また離島、半島そして過疎地にもそうした地域の活性化を目指すということが言われております。

しかしながら、今の現状で人口減少が加速している状況の中で、これがすぐ解消できるということは私は思っておりません。そうしたことで、地方創生には私たちも非常に期待をしないといけませんけれども、自分たちでやれることは自分たちでやるということが私たちは大事じゃなからうかというふうに思っております。そうしたことで、期待をしながら、自分たちで構想を練って、要望して取り組んでいきたいと、いかなければと私も思っておりますし。白川市長は、現在、全国離島振興協議会の会長でもあられまして、そして市長会の中でも非常に人望の厚い方でございます。そして市長は人間としてとうとい財産である、関係機関においてすばらしい人脈をお持ちでございます。このような白川市長に対して、私は壱岐の市長として非常に誇りを持っております。

そうしたことで、今、白川市長は、失礼ですけども、一番私は脂が乗っておる時期じゃなから

うかというふうを考えております。市長は、4年間の任期の折り返しの1年目を終わろうとしております。まだまだ続行されるとは思っておりますけれども、市長の任期中にレールを敷かれることは敷いて、そしてまた次にそれをレールを載せていくということが、私は大事だと思っております。

かの有名な壱岐の偉人と言われております電力王の松永安左エ門の遺訓の中に、自分がやらなければ、俺がやらなければ誰がやるというようなことが言われておりますが、私もそのとおりと思っております。

市長には、こうしたすばらしい部課長さんがバックにおられます。これからは英知を結集して、その市長の意気を発揮させていただきますようお願いいたしまして、私は次の質問に移りたいと思っております。

それでは、1項の福岡市と壱岐市との姉妹都市の構想についてでございますけれども、その1項の福岡市と壱岐市との人口から見ましても、100万都市と3万弱の壱岐市では全ての規模から見ても比較になりませんが、「立ち寄ろうば扇の下」というようなことわざもございますので、そうしたメリットがあると思っておりますし、福岡市の特に博多港とは約70キロという地理的にも近く、昔は伝馬船や帆船で玄界灘を渡りまして、海の交通の要所として経済的に重要都市としてつながっております。現在でも、博多の伝統ある博多港祭り、博多どんたくにも参加し、またいろいろなイベントにも参加し、壱岐市の物産展の交流も多くしております。友好都市に匹敵する経済都市であります。

一般的に、友好都市、姉妹都市は、その市との歴史、文化、教育、環境、観光、産業、経済等それぞれの交流から始まり締結されておりますようではございますけれども、壱岐市の経済のほとんどは福岡市であります。一番近い足元の経済圏であります。そして、友好都市、姉妹都市の構想あるいは交渉が、今までこうしたことでなされてあったのかどうか、まずお尋ねをいたしたいと思っております。

次に、2点目についてでございますけれども、現在、壱岐市では、友好都市、姉妹都市では、歴史文化の交流として、御承知のとおり旧芦辺町からの和田山町との交流であります。これは、芦辺町箱崎に祭られておられます小山弥兵衛先生さんとの関係で交流され、朝来市と合併後も引き続き交流をされております。芦辺町の商工まつりも毎年参加をされておられます。来年は、朝来市も市制合併10周年とお聞きをいたしております。その記念に友好か姉妹都市の締結ができることを私は期待をしておるところでございます。

諏訪市とは、これも旧勝本町に河合曾良の墓がございます。江戸時代の俳人の松尾芭蕉の弟子の河合曾良さんが諏訪市の生まれで、壱岐勝本町で亡くなっております関係で、旧勝本町と姉妹都市として締結され、あの有名な諏訪市の御柱も壱岐市に寄贈されております。壱岐の合併後

も継承されており、勝本港まつり、朝市にも招待し、私も諏訪市の招待で諏訪市の花火大会等にも招待されて行ったことがございますが、そうした姉妹都市としての交流がなされております。これは、歴史的の交流であり、経済的交流とは少し違った内容でございますが。

現在の社会情勢では経済的交流は重要でありまして、福岡市の経済交流は、漁業でも福岡魚市場、農業園芸作物では福岡大同青果、畜産では福岡食肉市場等々で取引をされておりました、また壱岐のエネルギー、これは漁業関係、産業関係、農業関係、一般の燃油、プロパンガス、LPガス、全て福岡が基点であります。物品購入等はほとんど福岡が経済拠点であります、これからの島の経済のためにも有利と考えておりますが、相手があることでありますけど、姉妹都市の交渉をすべきと私も考えておりますので、市長の御答弁をよろしく願いをいたしたいと思っております。

次に、3点目ですが、福岡市との交流は今まで上段で述べましたように、文化、経済の交流はされておりますけれども、今回、私が友好都市の交渉、実現に向けての質問の要旨は、現在壱岐市において非常に憂慮されておる重要な問題がございます。それを原発事故発生時の避難地の問題と救急患者の搬送の病院の受け入れ態勢であります。避難地については、福岡県とパートナーシップ、いろいろな提携もされておるとは思いますけれども、有事のときはベイサイドだけでは非常に混雑することになります。福岡の各港を利用することも予想されます。救急患者の搬送先につきましても、項目を上げて大体質問をしたいと思っておりますけれども、この件に関連してお尋ねをいたしますが。

救急患者の搬送については、旧町時代から見るといろいろな手続も緩和されて、ドクターヘリの設置により大変助かっておりますが、何と云っても壱岐は福岡市の病院が近くて、家族との関係もあり、患者の様態によりますが、個人の要望も聞き入れることがなかなか不可能でございます。姉妹都市の締結が実現できれば、友好都市とは友人でありまして、姉妹都市は家族であります。すぐに実現できないと思っておりますが、まず段階的に友好都市として、次に姉妹都市として締結に向けて努力していただけないかなというふうに考えております。

次に、4点目でございますけれども、福岡市との交渉は早急に取り組んでいただければなりませんけれども、白川市長は各市との交流がおありでございます。その中でも、大野城市や福岡市の市長様方と懇意ということをお聞きしておりますが、大野城市とは小学生の生徒さん方も研修に来られます。うきは市は、果物の産地で、バナナだけがないというような果物の産地と聞いております。そうした教育、産地の友好交流も大切でございます。朝来市を含めて、友好都市として交流ができるようお願いをいたしたいと思っておりますが、これはついでの質問でございますので、これで1点目の質疑を終わりたいと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

○議長（町田 正一君） 市山繁議員の質問に対する理事者の答弁を求めます。白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 13番、市山繁議員の御質問にお答えいたします。

福岡市と壱岐市の姉妹都市構想についてでございますけれども、その前に、ただいまは過大な評価をいただきました。頑張れという激励の言葉と受け取らせていただきました。松永翁の言葉のように、壱岐市には今やらねばならない問題が山積をいたしております。御期待に沿うよう努力をいたしてまいります。

さて、福岡市と壱岐市は規模的に比較にならないが、姉妹都市提携の可能性はないのかという御質問でございます。

福岡市は、言うまでもなく九州地方の行政、経済、交通の中心地であり、関西より西では150万人と最大の人口を擁する大都市でございます。これまで、壱岐市は福岡市との非常に近接性に恵まれた特徴を最大限活用いたしまして、特に観光産業において福岡市を含め福岡都市圏からの入り込みに最も力を入れてきたところであります。まさに、壱岐市は福岡市の経済圏になっているというところでございます。

さて、福岡市との姉妹都市構想であります。実は、昨年7月に福岡市筆頭副市長とお会いいたしました。また、昨年9月には福岡市経済観光文化局長とお会いをいたしまして、姉妹都市締結を希望しているという旨を直接お伝えをしたところでございます。その御返事といたしましては、福岡市は姉妹都市提携は国外しかないということ、またさまざまな市から依頼がある中で、壱岐市と姉妹都市提携を結ぶにはそれ相応の理由が要するというところでございます。すなわち、今までの民間交流、職員派遣だけでは足りないということでもございました。

これまでも、本市は長野県諏訪市との姉妹都市提携、兵庫県朝来市との歴史・教育・経済パートナーシップの宣言を行っております。これらも市民相互の人的交流のほか、物産などによる経済的交流の目的も含まれているところであります。さらに、福岡市との交渉をすべきとのことにつきましても、私自身も何らかの形で提携ができないかと考えているところでございますけれども、姉妹都市提携を結ぶためには、先ほど申しますようにそれ相応の理由が必要でございます。類似の特色を持っているか、または全く異なった相互補完的な機能を持っているか、または共通の歴史、社会的・文化的条件、それから人口規模や地理的条件などが考慮されるところでございまして、はっきりとした目的、さらには両市民の理解を得ることが必要でございます。

現在のところ、先ほど申しますように、福岡市は外国との連携を主にされておまして、国内との連携の考えは薄いと判断をいたしております。しかし、議員がおっしゃいますように、経済的な面では島の活性化に非常に効果をもたらすと考えておまして、姉妹都市あるいはパートナーシップの協定の締結の前段といたしまして、今特に緊密な関係を持っております福岡市のコンベンションビューローと、例えば壱岐市観光連盟が友好関係を築く、そういったことから進め

ていけば、より行政同士のそういう提携も近道になるんじゃないかということも考えているところでございます。

次に、友好都市、友好関係を結べば、緊急輸送、搬送といったものにも資するのではないかと
いうことでございます。現在、島外への救急患者の搬送は、長崎県ドクターヘリ、長崎県防災ヘリ、海上自衛隊ヘリで行っております。この5年間で239件のヘリコプターでの搬送を行っておりまして、搬送先といたしまして、主として大村市の国立長崎医療センターでございますけれども、県内の医療機関に177件、福岡県内の医療機関に62件搬送いたしております。また、搬送先の医療機関の選定は医師により行われております。このように、長崎県ドクターヘリ、長崎県防災ヘリ、海上自衛隊ヘリにより島外への急患搬送を行っておりますが、機体整備、天候不良、またほかに災害出動のために対応できないことが発生した場合、搬送手段として壱岐市に近い福岡市消防局のヘリコプターを要請することとなります。過去に、福岡市のヘリコプター要請をいたしましたけど、実費を請求をされております。

県を越えての急患搬送の要請は、現状では壱岐市から福岡市へ直接要請をすることはできません。手順といたしましては、壱岐市から長崎県、長崎県から福岡県、福岡県から福岡市への要請となりまして、福岡市消防局のヘリを要請することは、現状では、大変このように手順を要するという状況でございます。今後、急患搬送を含めた防災全体としての協定等の取り決めを壱岐市と福岡市が行う必要性などを考慮してまいりたいと考えております。議員おっしゃるように、行政の一つの約束事と申しますが、提携と申しますか、すれば、この辺がかなり簡略化されるのではなかろかという期待はございます。

失礼しました。それから、大野城市あるいはうきは市でございますけれども、福岡市近郊にございます大野城市並びにうきは市におきましては、特に子供たちの交流が盛んになっております。大野城市とは、昨年から小学生の子供たちが壱岐市に体験学習で来島いたしております。また、平成25年度長崎県原子力防災訓練において、広域避難場所として大野城市の体育館施設の利用に御協力をいただいております。また、うきは市の小学生の子供たちも3年連続で同じく体験学習で来島しております。

そのようなことから、本年8月に大野城市、うきは市に出向きまして、トップセールスをしてまいりました。特に、両市には海がないということもございます。海の体験を非常に楽しみにされておまして、今後も壱岐市への来島並びに双方向での交流をお願いしたところでございます。

11月1日、2日には、うきは市からの要望によりまして、うきは市で開催された産業祭り、うきは祭りにも壱岐ブースを出展いたしました。うきは市の皆様に壱岐をPRするとともに、現在は道の駅うきはで壱岐の産品が販売できないかと打診を行っているところでございます。子供の交流をきっかけにより波及が広がっていると感じております。特に、うきは市の高木市長は、

「いきいき・うきうき」で行こうというような、両市の市の名前をもじってそういう楽しい発想もしていただきました。

今後とも、福岡市含め近郊の市とも友好関係を図っていきたいと思っております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 市山議員。

○議員（13番 市山 繁君） 1項から追質を行います。この姉妹都市については、両方のそうした理解、そして目的もあるわけでございますけれども、以前にこれは転県問題もあったこともございます。しかしながら、了見が一致しないということでそれができなかったわけでございますけれども。

これは、姉妹都市は、私は壱岐市長の責任だけではなくて、壱岐郡時代からこれはもう交流があっておるわけですから進めてきたというふうに思っておりますし、せめて合併当時にこの話が出たらよかったなと思っておりますし、そして合併当時に出ておれば、5周年とか、最近ございました壱岐市の10周年記念式典でもこうした姉妹都市が提携できればよかったなというふうに私も考えておったわけでございます。

そうしたことで、合併当時はやっぱり病院建設とかいろいろあって、なかなかそこまで行かなかったんだろうというふうに思っておりますけれども、私は10周年の合併式典に、この姉妹都市が提携できればよかったなといういことに、正直思っております。

それから2項については、全て物事にはチャンスというのがあるわけでございますが、両都市の理解も必要でございますけれども、福岡市の市長さんが、市長はお聞きになってると思っておりますけれども、3年ぐらい前、私も議長でちょうど出席しておりました。そのときに福岡壱岐の会での御挨拶の中で、「壱岐は福岡県と思っっている方が非常に福岡市内には多い」と。そして、「私も実は壱岐市と福岡市は、福岡の北区であるというような私は考えを持って交流をしておる」という、本当にありがたい御挨拶がございまして、私もそれからいろいろ懇談をいたしましたけれども。

そしてまた、さきに行われました福岡市長選では現職の高島市長さんが相手候補を大差で当選をされました。高島市長は御存じのとおり、アナウンサー出身でございます。そうしたことで、いろいろ御挨拶も上手でございますし、人柄もよくて非常に話の通る方でございます。そして、今回2回目の当選をされておりますので、今が私は交渉のチャンスというふうに思っております。

福岡市長も白川市長の話を聞きますと、非常に多面的なおつき合いもあると思っております。そうした白川市長の地位と、そして人望等を生かして、早くこれは交渉すべきと私も思っておりますところでございます。

そして3項につきましては、申しましたように友好都市は友人であって姉妹都市は家族であり

ますから、私たち国民にも義務と権利はうたっておりますけど、医療につきましてもこれは大体国境を越えて、県境を越えてこれはしないかないわけがございますけど、今はそうしたドクターヘリにつきましても自衛隊につきましても、非常に厳しいところがございます。

今、言われたように福岡市にまだ搬送はしておりますけれども、通所支援はやっておりますけど、個人負担もございます。そういったいろんなこともございますが、やはり長崎大村に行くのはいいとですけど、患者の状態によってはよかですけども、先生たちが家族と話し合っ、やはり長崎近辺におられる方はいいわけですけども、それ以外の他県、遠くにいらっしゃる方は非常に家族の経済的、そしてまた不便が感じられるわけです。それはもう当事者でなければ私もわからないというふうに思っておりますので、そうしたことが私は姉妹都市をして有利になるんじゃないかと。少しでも有利になれば、そうした困っておる患者の方々に有利になるんじゃないかというふうに考えておりますので、そうしたことも含めて検討していただきたいなというふうに思っております。

そして、この4項目については、もう白川市長さんも私も「いきいき・うきうき」という話も聞いておりました。そうしたことにもございますが、この姉妹都市、いろいろなことについても企画につきましても、全国的には壱岐出身者の方が多くございます。そして、特に福岡県には壱岐出身の方が成功された方もございますし、福岡壱岐人会でもそうですけれども、そしてまた、そうした行政職について管理職になられた方も多数いらっしゃると思います。

そうしたことで、方々と協議をしながら、やはりその、うきはもそうですけれども、いろいろな姉妹都市、友好都市についても、またほかについても広く協議をしていただきたいなというふうに感じておりますので、よろしく願いいたしたいと思っております。

これにつきまして、今4点追質しておりますのでよろしくお願いします。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 市山議員の友好都市、姉妹都市等々について、特に福岡市とさらにプッシュすべきだという御意見でございました。

私も、高島宗一郎市長とは本当に親しくさせていただいております、壱岐市が九州市長会を行いましたときも、高島市長には壱岐においでいただきました。そして何と申しましても、壱岐市出身の福岡市職員でつくる岳の社会、これに私、毎年呼ばれるわけですけど、今まで2回ぐらい高島市長もその席にお見えになりました。

今、岳の社会の職員の数でございますけれども、会員これは現在の現職で131名が福岡市に在職をなさっていらっしゃいます。そして、特別会員、退職者の方でございますが54名いらっしゃいまして、185名という岳の社会の構成でございます。

こういった方々、そしてまた一般の壱岐の人口よりもはるかに多いであろうと想像できます壱岐の出身者の福岡在住の方等々いらっしゃいます。ぜひ直接、高島宗一郎市長にも、このことを今、筆頭副市長にまでしか言っておりませんけれども、このことを申し入れたいと思っております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 市山議員。

○議員（13番 市山 繁君） 市長もそうした気持ちでやっておられますので、これにつきましてはぜひ、取り組んでいただきたいというふうに思っております。

それでは2点目、釜山～福岡航路JRビートルの壱岐経由、壱岐寄港の要望について申し上げます。

政府も国の立て直しは経済であり、景気対策と言われているように、現在長崎県を初め他の県におきましても、外国・隣国の中国・韓国との交流を目指し、友好関係を結び活発な交流をしておられます。本県も11月26日、来年度の重点戦略案として県民所得の向上として、人口減少対策を重点課題に設定しております。そして、仕事・まち・人の3つの視点から重点的に取り組む新規拡充事業を示されております。壱岐市におかれましても、11月26日壱岐市長を会長とする人口減少対策協議会が壱岐市独自の計画によりまして、第1回が開催されております。

このようなことを踏まえて、壱岐市も隣国との文化・歴史の交流、誘致も必要な時期に来ていると私は感じておりますが、市長の御見解をお尋ねするところでございます。

2項目。韓国から観光客にはいろいろの話題も上がっておりまして、メリット・デメリットもございますけれども、対馬でもいろいろ言いながらも、釜山との直行便とのこともありまして、交流人口も増加しております。平成25年度の実績は18万609人、約18万であります。

そして、地域の活性化にもつながっておるということでございますが、壱岐には対馬と違ってほかにはない温泉もあり、またゴルフ場もございます。ゴルフ場愛好者の富裕層には、魅力的な島でありまして、そしてまたこの、よそにはない白砂青松の島とグルメも最高で、実現すればロコミがだんだんふえていくと、交流人口は増加すると私は思っております。

それから3番目は、外国人が来島するということになると、これは必ず税関署が法的に設置が義務づけられると私は思っております。しかしながら、これは検討していかないとわかりませんが、週に1回か2回だったら私は厳原関税支署からでも出張か出先事務所に可能というふうに私も思っておりますけれども、これはよく当たってみなければわかりませんので、これをひとつ検討されて、考慮させていただきたいというふうに思いまして、3点質疑を申し上げます。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 市山繁議員の2点目の質問で、釜山～福岡航路J Rビートルの壱岐経由の要望についてでございます。

長崎県におきましては、本年11月に平成27年度の重点戦略案が示されまして、国の動向や県議会での議論等を踏まえ、予算編成の中でさらに検討を進め、来年3月に平成27年度長崎県重点戦略が策定されることになっております。

その案の中において、施策の方向性として県民所得向上対策及び人口減少対策を重点課題と設定をいたしまして、課題の解決に向けて、仕事・まち・人の3つの視点から重点的に取り組む新規並びに拡充事業の案が示されております。また、案の段階ではございますけれども、本市といたしましては、これをいかに活用していくか、またそのために、いかに知恵を出していくかが重要と考えております。

そのため、壱岐市におきましては外部有識者や各分野代表、そして私が会長ではございますけれども、市の各部長からなる壱岐市人口減少対策会議、構成は21名でございます。を設置をいたしまして、去る11月26日に第1回目の会議を開催したところでございます。

今後、国が策定する長期ビジョンと総合戦略を勘案して、平成27年度中に本市の人口ビジョンと総合戦略を策定することとしております。今後の施策を検討する中で、長崎県重点戦略の活用や人口減少対策会議での御意見を反映されていきたいと考えております。

また、御質問の「壱岐市も隣国との文化・歴史の交流、誘致も必要な時期に来ていると感じるが、市長の見解を」ということでございます。

現在、国際交流の一つとして、毎年交互に韓国と壱岐を往来する形で、壱岐市文化団体協議会による民間レベルの芸能文化の交流が行われておりまして、韓国は伝統芸能、壱岐からは日本民謡や琴、三味線、大正琴などが披露されるなど、本年で16回目を迎えております。ことしは、先日12月9日に韓国で開催され、壱岐から33名が参加をいたしました。「非常に有意義であった、交流が図られた」ということをうかがっております。

近い将来、人口減少による国内観光業の縮小が予想される中で、外国との文化、歴史の交流を積極的に進め、インバウンドにつなげていくことが重要であると考えております。

また、釜山対馬航路につきましてはJ R、未来高速、大亜高速海運の3社が運行いたしております。私は8月に長崎県市長会が釜山であるということでございましたので、その際未来高速のファン社長様とアポを取っておりまして、そういったこともお話をしたいと思っておりましたけれども、諸般の事情で私が長崎市長会を欠席をいたしましたので、その実現がかなわなかったということでございます。

そこで次回、行く機会ございますときは、再度御連絡を差し上げる旨、手紙をお送りしたところでございます。未来高速の社長からも、今後お会いできることを楽しみにしている旨の返事を

いただいております。

議員がおっしゃいますように、私自身もことしをインバウンド元年と位置づけ、外国からの誘客にも取り組んでいるところでございます。引き続きJR、ビートルも含めまして、壱岐への寄港につきましても働きかけも行ってまいりたいと思っております。

韓国からの外国人の旅行者が直接来島できる体制ということで、税関等が必要ではないかということでございます。

対馬厳原港では門司税関厳原税関支署のほか、福岡入国管理局対馬出張所、福岡検疫所厳原・比田勝出張所が日本人旅行者の帰国も含めた入国者の管理をされております。壱岐市内におきましても、平成4年まで厳原税関管轄の郷ノ浦監視署がございましたが、監視署は船舶の入港、貨物の監視等ございましたので、人の出入りの管理になりますと、少なくとも支署、出張署の設置が必要と思われれます。壱岐は厳原税関支署の管轄となりますので、出張署になるものと見込まれます。

厳原税関にも設置の可否について確認をいたしました。まず、入国検査場のハード面の整備がなされなければならないということございました。航路とあわせてハード面の整備計画を立てて、初めて出張署の設置の協議ができるということでございます。しかし、週一、二回程度の便数となりますと、常駐ではなくて職員の派遣となると見込まれ、確実な派遣方法の確保等の課題をクリアする必要があるとのことでございます。そのほか、国際条約や関係機関との調整も生じる見込みでありますので、その際には厳原税関支署関係機関と連絡をとり、対応したいと考えております。

この対馬の税関支署長さんでございます小林満寿次支署長さんでございますけれども、この方は壱岐市が防人会と申しまして、市と警察、消防、それから税務署、法務局、海上自衛隊、そして対馬の税関支署長さん等を入れました防人会というのを定期的に行っております。そういった中で、壱岐市に、これは4半期ごとに開催しておりますけれども、常に壱岐に来ていただいております。そういった中で、そういうお話もする機会が可能でございますので、今からそういったことも、今までも相談してまいりましたけど、さらに深めた議論をしていきたいと思っております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 市山議員。

○議員（13番 市山 繁君） 市長が言われたとおりでございますけれども、おっしゃったように12月9日に、第16回の民間交流が韓国で行われております。

これはおっしゃったように文化協会から毎年交代で行っているわけです。市からも補助をいただいて、私も文化協会の一人でございますので、お礼を申し上げますけれども、この補助金では、

赤木さんもおいでですけど、一般、手軽に行く場合の芸はいいわけですけども、太鼓やら持っていくと、なかなか運送費がかかるわけです。そうしたことも持っていくときは、それは太鼓を実演するときは、その都度やっぱり幾らか補助金を増していただいて、太鼓も披露していただきたいなというふうに考えております。

そして、そうした国同士はいろいろあっても、この民間の文化、文芸を通じてやっていくのが交流が長く続くわけです。そうしたことを市長も、おっしゃったように欠席をされたと言われておりますけれども、この次はぜひ話を出していただきたいなというふうに思っております。

そしてゴルフ場の、私も温泉もそうですけれども、ゴルフ場も利用していただきたいと思って、その愛好者のことについて、このゴルフ場は、ゴルフの愛好者は非常に富裕層が多いわけです。対馬あたりはいろいろ失礼ですけれども低所得者とか、直行便がありますから誰や彼や来て、いろいろ問題を受けておりますけれども、壱岐にそれだけの目当てで来るということは富裕層が多いというところでございますから。

そしてゴルフ場に私も訪ねてみました。社長が森山さんが近くですからどうですかというふうに言いますと、今のゴルフ場の経営状態では、支配人も雇われないような状況でございますから、なかなか外国人の受け入れは厳しいと。そして、外国語に精通した人がおらないと。そしてキャディーについても、ルールの説明もなかなかうまくいかんじゃないかというようなことがございました。そらそうだろうなということは思っておりますけれども、いつまでもそればかり言うて発展、先へ進みませんから、そうした韓国語、中国語の通訳できるようなキャディーを雇うということはゴルフ場はその経営であって難しいですけれども、これは観光商工課においても、やっぱり1人ぐらいはそうしたことが、臨時職員でも構いませんが行けるように、対応ができるように私はしていかなければ、私は交流は進まないのじゃないかというふうに考えております。

そして、この海の駅についても、最近オープンされましたけれども、やはり温泉に週に一、二回来ると、韓国人の交流がされると。やっぱり1週間に1回となると3日間は泊まるわけですから、そうしたことをゆっくり温泉も利用していただいて、そして壱岐のグルメを、食を堪能していただきたいというように私も考えております。

そして税関ですけれども、これは国内じゃったら福岡に韓国から来られて壱岐に来る分については何もないわけですけども、壱岐から出国するということになると、これは税関が非常に必要になります。それには、やはり国土交通省とか財務省、いわゆる警察、そして運輸省の関係もございまして、これはよく調査して検討していただきたいなというふうに思っておりますので、この件について市長、何かございましたら。

○議長（町田 正一君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 寄港となりますと、ビートルにしても外国の会社にいたしましても、寄港するとなりますと、いわゆるその港が国際港となるわけでございまして、今その開港、いわゆる不開港・開港という言葉を使いますけれども、大丈夫なのかということで御心配でございました。

これ荷物を、貨物を搬入する場合は、壱岐の場合は不開港でございますから、まだ開いておりませんから、開港手続が要るということでございますけれども、人の交流だけ、いわゆるビートルとかジェットfoilだけだったら、今のままでも港を使えるということを知っていて、それは確認をいたしております。

したがって、港そのものには問題はないわけでございますけれども、一つ、検疫を十分にしないといけないということが一つだけ気がかりでございます。そういった中で、やはり対馬に18万人も来られておる。そういった中で、じゃあ壱岐はどうなのかといったような問題、そういったものも加味しながら考えていきたいと思っておりますし、また市山議員おっしゃいますように、壱岐市に韓国の方がお見えになりますと、必ずではございませんけれども、ほとんどの方が宿泊をなされないといけないということでございますから、非常に対馬の方は大半が日帰りであると聞いております。そういった中で、かなり対馬に比べて経費がかかるというようなこと等々で、対馬のような多くの客は期待もできない。もちろん年間18万人といえますと宿泊キャパもございませんし、そういった中でやはり、しかしながらインバウンドの振興というのは図っていかないとはいえないと思っております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 市山議員。

○議員（13番 市山 繁君） おっしゃいました、私はやっぱり対馬は直行便みたいですから自由に来られるわけですが、私はやっぱり富裕層を狙っておるわけです。富裕層は、やっぱりそうした金を持ってこっちに来るということでございますが、おっしゃったように衛生面については特にこれは検疫をしていただければならないというふうに思っておりますが、逆に3日間泊まれば壱岐に上陸する、そうすると当然これは免税店もいるかもわかりません。そうした免税店ができれば壱岐の商店街もまた繁盛するというようなことも利点もございます。

そうしたことも含めて、私は全て調査をしていただきたいなというふうに思っております。そうした港の着岸とか寄港とかに問題があると思っておりますけれども、それもよく検討して、私はすぐにできることじゃないと思っておりますけれども、足がかりをつくらないと、いつまでたっても壱岐にそうした人がおいでにならないから、湯本の活性化も含めて。

ゴルフ場は今の状態では私はいかんとおもう。支配人も雇われなければ、そしてまた社長も低月給でやっております。そうしたことで、やはりそれだけの対応ができなければ人も来ないわけ

ですから、その点も含めて、やっぱりそれに対応できる韓国語の通じるような人も雇用しなきゃいけないというふうに思っておるわけで、よろしく願いをいたしまして、あと6分ございますけれども、私の質問を終わります。ありがとうございました。

〔市山 繁議員 一般質問席 降壇〕

○議長（町田 正一君） 以上をもって、市山繁議員の一般質問を終わります。

以上で、一般質問を終わります。

○議長（町田 正一君） これで、本日の日程は終了いたしました。

次の本会議は12月19日金曜日、午前10時から開きます。12月15日は各常任委員会を、12月17日は予算特別委員会をそれぞれ開催いたしますので、よろしく申し上げます。

本日はこれで散会いたします。お疲れさまでした。

午前11時09分散会
